



国際センター通信 (No.16)

新年挨拶 ～土木学会 会長 橋本鋼太郎～

2014 年を迎え、新年のご挨拶を申し上げます。

本年、国際センターは設立 3 年目を迎え、土木学会は創立 100 周年となります。11 月に東京において記念式典を行います。この中で「社会インフラの豊かな生活への貢献」をテーマに国際フォーラムを開催します。併せて防災に関する円卓会議 (3rd RTM) を開催します。また 9 月には全国大会 (大阪大学) において、国際関係としてサマージョイジウム、若手ワークショップを、8 月には韓国 釜山において日本・韓国・台湾のジョイントセミナーを計画しています。



土木学会 会長
橋本 鋼太郎

本センターは 5 つの活動グループと 9 つの海外分会を有し、海外の 30 の学協会と協定を結んでいます。各々の活動グループ、分会の活動の充実、海外の学協会との交流・協力を進める必要があります。

2020 年には東京においてオリンピックが開催されることが決定しました。国際社会の中で日本人が本格的に活躍するためには、国際社会で活躍できる、人材の育成が必要です。そのためには日本人が国際的な視点に立って考え、行動するとともに社会制度が国際的標準に近づくことが必要です。例えば、公共事業の施行に当たってもプロジェクトの総合化、大規模化、設計・施工・監理の体系化、各種の PPP (Public Private Partnership) の導入、CM (Construction Management)、EPC (Engineering Procurement and Construction) 等の民間活力の活用が進められることが必要です。

英国土木学会 (ICE) が ICE 契約約款を、国際コンサルティングエンジニア連盟 (FIDIC) が FIDIC 契約約款を中心となって発行しています。また、社会インフラの評価について、ASCE (米国土木学会) が Report Card を、ICE が State of the Nation を発表していることが参考になります。

フィリピン レイテ島の台風 30 号の災害については土木学会として災害調査団を派遣しましたが、海外からの投稿、情報をお待ちしています。本年もよろしくお祈りします。

【編集部註】

※国際コンサルティングエンジニア連盟: FIDIC (International Federation of Consulting Engineers)。FIDIC の正式名称はフランス語で「Fédération Internationale des Ingénieurs Conseils」です。

2013年 中国土木水利工程学会(台湾)年次大会参加報告

中国土木水利工程学会（以下 CICHE；台湾の土木学会に相当）の年次大会（2013年11月22日）に土木学会の代表として参加しました。会場は台北市の台湾科技大学でした。CICHEは土木学会との提携歴が最も長い海外学会であり、活発な交流を行ってきました。今回、土木学会からの参加者は、土木学会顧問（前会長）小野武彦氏および中山かおり氏（清水建設）、国際センター次長山川朝生氏（日本工営）、ラウンドテーブル・ミーティング発表者として曾根真理氏（国土交通省 国土技術政策総合研究所 国際研究推進室長）、国際交流グループ台湾担当のEllen Wang氏（近代設計）と大内教授（高知工科大学）の6名でした。



国際センター
台湾グループリーダー
大内 雅博

CICHEの年次大会は土木学会の総会と全国大会を合わせたようなものであり、毎年11月に1日間の日程で開催されています。午前中に総会・特別講演・セレモニー、午後に研究討論会が行われるのが通例であり、今回も例年同様の日程で行われました。

総会では小野武彦顧問が「2011年東日本大震災からの教訓」と題して講演をしました。東日本大震災被害に対する台湾からの支援への感謝を述べ、創立百周年を迎える土木学会の最近の取り組みと記念行事について説明をしました（写真-1）。今回はCICHEの会長交代年であり、陳希舜前会長（前・台湾科技大学長、現・公共建設大臣）から呂良正新会長（台湾大学教授）への引継ぎのセレモニーが行われました（写真-2）。



写真1：総会で講演する小野武彦顧問



写真2：陳希舜前会長(右)から呂良正新会長(左)への引継ぎ



写真3：曾根真理氏による講演

CICHE年次大会では各研究部門に分かれた募集による研究発表会はなく、専ら土木全体に関わるテーマに関する研究討論会が複数同時並行で行われています。そのうちの1つがInternational Round Table Meetingであり、台湾外からの講演者も招いて英語で開催されました。テーマは「持続的な技術革新—低炭素デザインとエコシティ」で、台湾内から3つ、韓国から1つ、そして日本からは曾根真理氏が「社会基盤のためのライフサイクルアセスメントの方法論の開発」と題して講演をしました（写真-3）。曾根氏の講演は他の参加者から高い評価を得ることができ、改めて日本の研究水準の高さを示すことができました。

コンクリート技術に関する JSCE-VCA ジョイントセミナー開催報告

2013年9月19日と20日にベトナムのホーチミンにおいて、ベトナムコンクリート協会 (Vietnam Concrete Association) と土木学会 (JSCE) コンクリート委員会とのジョイントセミナーが開催されました。土木学会コンクリート委員会では、過去に台湾、モンゴル、韓国、ベトナム、スウェーデン、ギリシャ、トルコでジョイントセミナーを行っています。ベトナムについては、2012年のハノイで実施したセミナー (日本貿易振興機構と共催) に続いて、日本のコンクリート技術の紹介、ベトナムにおけるコンクリート技術報告が行われました。



写真1：挨拶をするベトナムコンクリート協会会長 Le Quang Hung 博士

セミナーは、ベトナムコンクリート協会の会長である Le Quang Hung 氏 (写真1) と副会長の Nguyen The Hung 氏、日本側団長の河野広隆氏 (京都大学教授) の挨拶で始まりました。

2日間のセミナーで約150人のベトナムの研究者や技術者が参加し、日本側から7件、ベトナム側から2件の講演が行われました。日本側の講演では、河野広隆氏が日本のコンクリート技術の変遷とコンクリート標準示方書について、谷口秀明氏 (三井住友建設(株)) がコンクリート標準示方書施工編の概略とコンクリート施工の基本について、小川洋二氏 (日本ヒューム(株)) がプレキャストコンクリート技術について、鈴木良

和氏 (ジャパンパイル(株)) が節杭の特徴、適用性について、浅本晋吾氏 (埼玉大学准教授) が収縮、クリープの予測について、奥山康二氏 (電気化学工業(株)) が吹き付けコンクリートの技術について、多田克彦氏 (太平洋セメント(株)) が高流動・高強度コンクリートの技術について講演しました。ベトナム側からは、ベトナムのコンクリート技術の概要、Mekong川の砂を用いたコンクリートの問題についての講演がなされました。今回の日本側の講演内容はベトナム側からの具体的なリクエストに基づいたものであり、昨年度のセミナーに引き続いて、日本の示方書への関心が高まっていると言えます。出席者からは日本の技術に関して多数の質問が出されました (写真2)。



写真2：質問に答える河野教授

質疑応答中、ベトナムでは他国の様々な基準を翻訳して現場ごとに異なる基準を使い、古い基準と新しい基準が混在している状況にあり、他国の基準を単に翻訳して基準化するのではなく、日本のようにベトナムに合った独自の基準を整備するべきだという意見がベトナム側から出ました。また、今回の講演は2007年版の示方書に基づいた内容であり、2012年版の示方書の英語版発刊について、ベトナム側の興味も高く、早期の英語化が期待されていました。最後に、今後のベトナムのコンクリート技術発展のためにも、今後も日本側と同様のセミナーを開催したいと、ベトナムコンクリート協会から強い要望を受け、セミナーは盛況に終わりました。



セミナー関係者集合写真

なお、本ジョイントセミナーは、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものです。ここに記して謝意を表します。

コンクリート委員会 浅本晋吾 (埼玉大学)、ファン ハウ ユイ ウォック (清水建設株式会社) 記

イベント情報

- 2014/2/12・・・第1回 国際センターシンポジウム講演会 土木学会講堂（東京）
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/50>)
- 2014/3/7～9・・・第26回 ACECC 理事会 ハワイ、ホノルル
- 2014/3/12・・・日本・インドネシア土木技術セミナー 土木学会講堂（東京）
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/51>)
- 2014/5/31・・・留学生向け企業説明会 土木学会講堂（東京）

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 35 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしく願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・ 日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・ 英語版 : (http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students)
- ・ 英語版（日本の大学等への留学経験をお持ちの方） : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>)

◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

Yの独り言

数日前、千葉にある柏の葉スマートシティに行ってきました。つくばエクスプレスで混雑した秋葉原駅からゆったりとした柏の葉キャンパス駅まで約30分で到着しました。駅の周辺には、ショッピングモール、シネコン、オフィスビル、大学、背の高いマンション、公園や農園がありました。スマートシティは、緑や農園の中で近代的なIT技術にささえられた生活を提供する町のようなのです。あれ、石巻や釜石は？住民は、そこに住み、海で働き、畑で野菜を育てていました。町は自給自足の自治体であり、最初のスマートシティでは？新しいスマートシティを建設するアイデアや技術を、津波災害にあったこれら町の立て直しに活用できないのでしょうか？

【ご意見・ご質問】：JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

